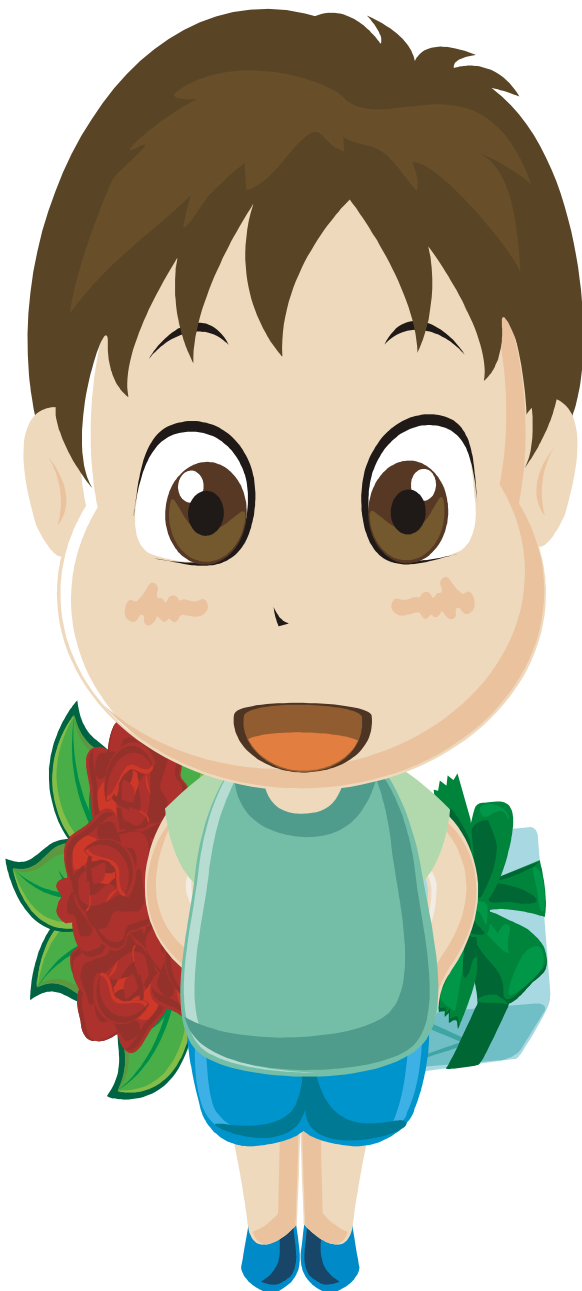


Little Players News

No. 183 2013年 6月

寒暖の差が激しい時期ですが、体調管理に気をつけましょう。6月は庭木が美しい時期です。気分転換に、お散歩するのも楽しいですね。今年の発表会は9月8日(日)を予定しています。



♪ 今月はロシアの作曲家ストラヴィンスキー(1882～1971)の作品についてお話したいと思います。

イーゴリ・ストラヴィンスキー

指揮者、ピアニストとしても活躍した20世紀を代表する作曲家の一人です。初期の作品である3大バレエ音楽の『火の鳥』、『ペトルーシュカ』、『春の祭典』が有名で、よく演奏会で取り上げられています。

ストラヴィンスキーは、ペテルブルグ郊外のオラニエンバウムで三男として生まれました。父は有名な歌手でした。家には図書館並みの20万冊もの本があったそうです。ストラヴィンスキーは恵まれた環境で9歳の時にピアノを学び始め、同時に作曲の手ほどきも受けました。しかし、両親は音楽家にするつもりはなく、ペテルブルク大学法学部に入学します。その大学でリムスキー＝コルサコフの息子と知り合ったことで、20歳の時にリムスキー＝コルサコフに学ぶことになりました。そして、この大家が亡くなるまで作曲と管弦楽法を師事したのです。

火の鳥

「火の鳥」というと、私は漫画家である手塚治虫さんの代表作を思い浮かべます。不死鳥「火の鳥」の血を飲めば永遠の命を得られるというストーリーで、地球の創世から未来まで描かれている壮大な作品ですが、ストラヴィンスキーの代表作である「火の鳥」は、ロシアの伝説を題材にしたストーリーです。幸運の象徴とされる「火の鳥」を追ってきた王子イワンに「火の鳥」は捕まり、「火の鳥」はイワンに黄金の羽を差し出して逃がしてもらいます。魔王カスチェイに捕らえられていたツアレヴナ王女や貴族たちを、イワン王子が「火の鳥」からもらった黄金の羽で救い、魔法からさめた王女と結ばれるというストーリーです。1910年にパリで初演されたバレエ音楽で、師であるリムスキー＝コルサコフに献呈されました。初演は大成功し、この曲はストラヴィンスキーの出世作となりました。ディズニーの「ファンタジア2000」にも採用されていますが、音楽と映像の融合が素晴らしいです。

西川音楽教室

<http://soundwalking.com/>